

高野史男教授を送るにあたって

正 井 泰 夫

高野史男先生が、この一九八七年三月、立正大学を定年退職される。高野先生は本当に大学教授らしい方である。大学教授にもさまざまな類型があるが、先生の場合、大学教授ということばが本当にぴったりとする方のように思われる。学問・研究への高い見識と教育に対する心からの情熱は一方ならぬものがあつた。先生の数多くの研究業績がそれを如実に物語っている。真面目な先生なので、いわゆる面白いエピソードにはどうも欠けるが、信念に対してはきわめて忠実な方であり、安易な妥協は常に排されてきた。格式を重んじ、正確さに執心される一方、地味で争いを好まぬ御性格であり、多くの人から厚い信望を得てこられた。

先生は一九一七年に千葉市でお生まれになり、千葉女子師範学校付属小学校、県立千葉中学校を卒業された。現在、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館の近くで、高いケヤキのある閑静なところにお住まいだが、小中学校時代の懐かしさが、先生を、東京人であるよりも、むしろ千葉県人へ駆り立てたのであろう。中学卒業後、東京高等師範学校文科四部（地歴）に入られ、地理を専攻された。その後、岡山県師範学校で三年ほど教えられたのち、そこを休職して東京文理科大学地学科へ入学、地理学を専攻された。当時の主任教授は、立正大学でも長く教えられた田中啓爾先生であり、その因縁もあつてか、のちに本学へこられることになったのであろう。

文理大卒業後、すぐ特別研究生となられて本格的な研究を始められたが、その後、長野師範学校・信州大学へ迎えられる。先生が長野県の、あの美しい風土をこよなく愛されているのは、この何年間かの生活が大きく影響している。次いで愛知学芸大学へ転勤され、二十年間、中京圏の研究とともに、多くの人材を育てられた。一九七一年からは東京教育大学理学部地理学教室へ。東京教育大学が筑波大学となつてからも、一九八〇年三月に定年退官されるまで、都市地理学や地誌学の中心的教授として活躍された。そしてすぐ本学へ教授としてこられたのである。このように、第二次大戦後の大部分の時期を教育者として有意義にすごされた。

多岐にわたる先生の研究業績のうち、何といっても目立つのは都市地理学に関するものである。第二次大戦後、日本の都市地理学は新たな興隆期を迎えたが、その中で先生は極めて大きな役割を果たされた。都市化が世の中の注目を浴び、大都市圏が急速に成長しつつあった時である。先生の研究法は、一般的にいうと、都市あるいは都市圏の地域構造を理論的にとらえるというものである。単なる資料の羅列にはあまり興味をしめされない。分析に重点をおかれるのである。木内信蔵、山鹿誠次、清水馨八郎、田辺健一、それに本学の稲永幸男、服部銈二郎らの諸先生と協力し、日本の都市化研究の全盛期を作りあげた大貢献者でもある。

一九六八年の文部省在外研究員としてのインド・イギリス方面への研究旅行は、先生の研究法に大きな影響を与えた。理論的分析には国際的視野が強く導入されただけでなく、前々から関心をもたれていた地誌学的アプローチにも、ますます磨きをかけられた。日本・インド・イギリスをめぐる形で地誌学的研究が進んだが、本学にこられてからは、さらに中国や韓国にも深い関心を示され、しばしば資料収集に現地を訪れられている。これは、究極的なアジア地誌の集大成へ向けての御活躍のように見受けられる。

長身の先生は、その学識と人柄のため、本職以外でも、岐阜大学・静岡大学・東京教育大学・愛知大学・上智大学

・日本大学・東京大学・立正大学・金沢大学・琉球大学・お茶の水女子大学などで講義をされてきた。また、日本地理学会評議員、常任委員、日本学術会議地理学研究連絡委員会委員、文部省学術審議会専門委員、文部省教科用図書検定調査審議会委員などの仕事もこなされた。本学でも定年による御退職の最後の時まで、大学院研究科委員長の要職につかれてきたことは、私たちすべてがよく知っていることである。私個人としては、筑波大学と本学において、後輩教授として十二年の間、同じ職場で御指導をいただいたが、これはたいへんな幸運といえよう。

高野先生は、定年退職したら「どこか気候風土のよいところにも別荘を建てて住みたい」、「スペインにでもいきいたい」とよくいわれていたが、これはどうもすぐには実現しそうもない。前から続いている文部省科学研究費による海外調査の中心的存在として、これからも本学地理学教室のスタッフや大学院生とともに韓国へ出向かなければならないからである。ゆっくりお休みいただくことができないのは恐縮であるが、私たちとしては、まだまだ教えていただくことが多く、近いところにおられて、ちよくちよく顔を見せていただきたい。

主 要 著 書（共著・分担執筆を含む）

刊行年	書 名	発 行 所
一九五四年	伊藤郷平編著「地方都市の研究」	古今書院
一九五七年	木内・藤岡・矢嶋編「集落地理講座」	朝倉書店
一九五七年	藤岡謙二郎編「人文地理学研究法」	朝倉書店
一九五九年	木内・藤岡・矢嶋編「集落地理講座」	朝倉書店
一九六一年	石田・矢沢・入江編「世界地理四、アジア・アフリカ」	古今書院

一九六一年	多田文男編「新世界地理五、インド・西亜」	朝倉書店
一九六三年	伊藤郷平他編「日本地誌ゼミナール 東海地方」	大明堂
一九六三年	世界地理風俗大系第一卷「インド半島」	誠文堂新光社
一九六四年	木内信藏他編「日本の都市化」	古今書院
一九六四年	清水馨八郎編「新宿副都心研究」	副都心研究会
一九六五年	中央社編「世界各国総事典」	中央社
一九六五年	伊藤郷平編著「現代社会と地理学」	大明堂
一九六六年	谷岡武雄他編「応用地理学とその課題」	大明堂
一九六七年	青野壽郎他編「日本地誌七、東京都」	二宮書店
一九六八年	青野壽郎他編「日本地誌五、関東地方総論・茨城県・栃木県」	二宮書店
一九六九年	青野壽郎他編「日本地誌一二、愛知県・岐阜県」	二宮書店
一九七一年	木内・藤岡編「講座都市と国土二」	鹿島出版会
一九七一年	「社会の発展と地理学」(伊藤郷平と共編)	大明堂
一九七一年	木内・田辺編著「広域中心都市」	古今書院
一九七二年	青野壽郎他編「日本地誌一一、長野県・山梨県・静岡県」	二宮書店
一九七二年	伊藤郷平編「中京圏」	大明堂
一九七二年	尾留川正平他編「人文地理調査法」	朝倉書店
一九七二年	青野壽郎他編「日本地誌九、中部地方総論・新潟県」	二宮書店
一九七三年	日本地誌研究所編「地理学辞典」	二宮書店
一九七四年	青野壽郎他編「日本地誌一五、大阪府・和歌山県」	二宮書店

主要論文

刊行年	題	目	発表誌・発行所、巻数・号数
一九七六年	青野壽郎他編「日本地誌二〇、佐賀県・長崎県・熊本県」		二宮書店
一九七七年	「都心再開発」(田辺・二神と共編著)		古今書店
一九七八年	青野壽郎他編「日本地誌一七、岡山県・広島県・山口県」		二宮書店
一九七八年	織田武雄編「世界地理四、南アジア」		朝倉書店
一九七八年	「日本の生活風土Ⅰ、Ⅱ」(山本正三・正井泰夫と共編)		朝倉書店
一九七九年	青野壽郎他編「日本地誌一九、九州総論・福岡県」		二宮書店
一九七九年	「世界の大都市、上・下」(山本・正井・太田・高橋と共編)		大明堂
一九七九年	青野壽郎他編「日本地誌二、北海道」		二宮書店
一九八〇年	都市形成の地理的基盤(編著)		大明堂
一九八〇年	青野壽郎他編「日本地誌一、日本総論」		二宮書店
一九八六年	大明堂編「新日本地誌ゼミナール・関東地方」		大明堂
一九四八年	交通の社会地理学的意味		信濃郷土科学研究会研究報告第一集
一九四八年	社会科における地域社会の問題		信濃教育七四三号
一九五〇年	社会地理学試論		田中啓爾先生記念大塚地理学会論文集
一九五〇年	地理学における歴史的方法と動態的方法		新地理四一九(帝国書院)
一九五一年	隔絶山村「秋山」の社会地理学的研究		信州大教育学部研究論集一
一九五二年	日本における農業地域の分化		愛知学芸大地理学会報六号

一九五二年 蒲郡の集落構造

一九五三年 農村都市としての安城

一九五四年 地理学本質論ノート(1)、(2)

一九五六年 大都市郊外論

一九五八年 異質社会の接触と同化―北海道におけるアイヌと和人との複合社会―

一九五八年 The City-Region Network as the Structure of Geographical Area in Nagoya District

一九五八年 挙母市の都市構造と近代工業トヨタの影響(共著)

一九五九年 The City Region Network as the Structure of Area

一九五九年 都市圏研究序説(上)(下)

一九五九年 都市化の類型と概念規定

一九六〇年 春日井市民の都市生活圏

一九六〇年 再び都市化の概念について

一九六二年 地理学と都市計画

一九六二年 都市圏パターンに関する地域構造論的研究

一九六四年 都市の本質―北海道帯広市の事例から―

一九六四年 中京大都市圏における人口流動

一九六五年 豊橋・浜松両都市相互および周辺地域との機能的関連

一九六五年 都市問題と地価

愛知学芸大地理学報告一

愛知学芸大地理学報告三

愛知学芸大地理学報告五、同六

愛知学芸大地理学報告八

人文地理九一六

愛知学芸大研究報告第七輯 社会科学

愛知学芸大地理学報告一一

Proceedings of I. G. U.
Regional Conference in Japan, 1957

愛知学芸大地理学報告一三、同・一五
・一六

地理学評論三二―一二

愛知学芸大地理学報告一四

地理五一一

都市問題五三―四

愛知学芸大地理学報告一九

愛知学芸大地理学報告二一・二二

地理九一七

愛知学芸大地理学報告二三・二四

都市経済研究二―三

- | | | |
|-------|--|-----------------|
| 一九六六年 | 都市学成立の基盤 | 日本都市学会年報一 |
| 一九七〇年 | ロンドンの都市問題と市民生活―景観地理学的考察 | 愛知教育大地理学報告三三 |
| 一九七〇年 | 自動車工業都市豊田の形成と発展（共著） | 地理一五―五 |
| 一九七〇年 | 中京経済圏における中津川市の地位と役割 | 愛知教育大地理学報告三四 |
| 一九七〇年 | 地理学における都市分析 | ジュリスト四五七号 |
| 一九七一年 | 地理学と地理学習との結合 | 愛知教育大地理学報告三六・三七 |
| 一九七三年 | 西南日本諸都市の産業基礎について | 地理学評論四六―三 |
| 一九七四年 | 商業地と商圈 | 地理月報二〇〇号 |
| 一九七四年 | 産業基盤からみた日本の都市の一考察 | 東京教育大地理学研究報告一八 |
| 一九七五年 | 大型店の進出による都市システムへの影響について（共著） | 東京教育大地理学研究報告一九 |
| 一九七五年 | 岡崎市における都心再開発とその影響（共著） | 地学雑誌八四―四 |
| 一九七五年 | 地理的現象の本質とその考察について | 地理月報二二〇号 |
| 一九七七年 | 大塚における地誌学派の形成と発展 | 東京教育大地理学研究報告二一 |
| 一九七七年 | 北陸地方における工業都市発達の要因について | 筑波大人文地理学研究Ⅰ |
| 一九七八年 | 最近の日本の商業に関する地理的一考察 | 小出武先生古稀記念論文集 |
| 一九七九年 | 中規模都市におけるCBDの画定とその機能の集積状況
―千葉市と岐阜市を事例として―（共著） | 筑波大人文地理学研究Ⅲ |
| 一九七九年 | 日本海沿海地域考―地理的事象の本質について― | 地域研究二〇―一 |
| 一九八一年 | 都市再開発の理想と現実―地理学からみた再開発― | 不動産研究二三―四 |
| 一九八三年 | 現代人文地理学の三つの潮流とその統合 | 立正大学文学部論叢七六 |

一九八五年

続「都市化」論争（「地理学の社会化」所収）

大明堂

一九八五年

日本列島地域構造論（「地域の探究」所収）

古今書院

一九八五年

史観・地理観・世界観——中南米巡検からの考察——

地域研究二六一

一九八七年

地域構造とリージョナリズム——序説

立正大学大学院紀要三号